



平成ノ大造営

時満ちて 道ひらく

平成二十五年・癸巳 年頭挨拶



宗像大社 宮司 高向 正秀

平成二十五年癸巳の年頭を迎えるにあたり、皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者のご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は国内外の諸問題が山積し、政権も交代することとなり、新政権には国民の大きな期待が寄せられる

こととなりました。中でも、領土問題にかかわる天皇陛下への無礼極まりない発言をはじめとする外交や防衛問題は、国の根幹にかかわるものでもあり、そういう点においては「内憂外患」の一語に尽きる年ではなかったでしょうか。

さらに、昨年は我が国最古の書物である「古事記」が撰上され、約千三百年という年でもありました。教義・教典がない神社神道では、古事記や日本書紀がこれに代わるものとして重要視され、ここには先人たちの生き方や考え方が濃縮されており、今もそれは色褪せることがありません。混沌とした時代を生き抜くために、私たちは今こそこのような先人たちの叡智から学ぶべきと考えます。

Table listing staff members of Munakata Shrine and its sub-organizations, including representatives, board members, and various administrative roles.

年頭挨拶



福岡県知事
小川 洋

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては新たな希望に満ちた年をお迎えのこととお喜び申し上げます。宗像大社および地域の皆さまには、日ごろから「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録推進活動に、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成二十一年一月に本遺産群がユネスコの世界遺産暫定リストに記載されて以来、福岡県は、宗像市、福津市と共同で、市民団体、経済団体、文化・教育団体等の皆さまと「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を設置し、世界遺産登録に向けた官民一体の取り組みを推進しています。

昨年は、本推進会議におきまして「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産を、航海の安全と対外交流の成就を祈って国家的祭祀が行われた「沖ノ島」、その祭祀を起源として宗像三女神を祀る島伝いの壮大な三宮へと発展をとげた「宗像大社」、そして沖ノ島祭祀を奉斎した海の民の集団のあり方を最もよく表象する「新原・奴山古墳群」に決定いたしました。今後は、これらの資産について保存管理計画の作成を進めるとともに、引き続き国内外の専門家からご助言をいただき、「顕著な普遍的価値」の証明に努めてまいります。

また、世界遺産登録には、地元機運の盛り上がりが必要となります。昨年は、本遺産群の世界遺産登録活動に対し、県民の皆さまのさらなる関心と理解を得るために、福岡市と宗像市においてシンポジウムを開催したほか、九州国立博物館では、パネル展示や沖ノ島の3D映像上映などを行いました。これらのイベントには、多くの方々のご来場され、本遺産群の価値を広く発信することができました。また、



推進会議



シンポジウム

市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」の公演や、新原・奴山古墳群での「古墳のアート展」の開催など、市民の皆さまによる活動もますます活発になっております。本推進会議では、皆さまのお力添えをいただきながら今後も積極的に広報活動を展開し、世界遺産登録への機運をさらに高めてまいります。

世界遺産とは、国家や民族を超えて人類が共有するべき遺産です。宗像大社をはじめ、地域の皆さまの信仰により現代まで受け継がれてきた、このかけがえのない遺産を、確実に将来へ引き継ぐためにも、今後とも本推進会議の世界遺産登録活動に一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

本年が、皆さまにとりまして、夢や希望が持てる素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたします。



Personal Communication

株式会社 ゼネラルアサヒ

〒812-0064 福岡市東区松田3丁目777番地
TEL 092-611-8311

GA デジタルグラフィックス研究所

宗像市アスティ1丁目5番地



平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。

年頭挨拶



宗像市長

谷井 博美

あけましておめでとうございます。輝かしい平成二十五年の新春にあたり、皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より宗像市政、とりわけ「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録推進活動に格別のご理解とご協力を賜り、改めて厚くお礼申し上げます。

さて昨年を顧みますと、幸い宗像市では大きな被害はありませんでしたが、七月の記録的大雨により、福岡県南地域を中心に河川堤防の決壊やがけ崩れなど甚大な被害が発生しました。また十二月の衆議院選挙では政権交代が行われるなど、非常に変化の激しい一年でありました。し

かしこのような中、本市では「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向けた構成資産の絞り込みが終了するなど、世界遺産登録を目指すうえで大きな飛躍の年でもありました。

宗像大社は、市杵島姫神、湍津姫神、田心姫神の三女神をまつる全国六、四〇〇社の総本宮として古代から悠久の歴史を持つており、宗像地区は宗像大社を中心として発展してきました。宗像の歴史は宗像大社を抜きにしては語る事ができません。宗像大社は、まさに先人が私たちに残してくれたかけがえのない貴重な財産であるといえますし、宗像地区では今日でもお互いが強い絆を持ち、一体となった住民の生活圏が形成されているなど、まさに宗像のシンボルといえます。

このような宗像大社を中心とする関連遺産群を保全し、後世に継承していくため、並びにこの宗像地域にある貴重な歴史、文化、自然を再認識してもらい、市民自ら地域の誇りと愛情をもって引き継いでいってもらうために、世界遺産登録活動をより一層推し進めて



海の道むなかた館のオープン記念でトークショーに出演された森口博子さん

いかなければなりません。昨年も九月には市民ミュージカル「むなかた三女神記」の公演が行われるなど、市民活動もますます活発になってきています。また、昨年の春には郷土文化学習交流館「海の道むなかた館」がオープンいたしました。今後も、宗像大社神宝館との連携をますます深め、文化や世界遺産登録活動の発信拠点として、世界遺産登録に向けた活動をこれまで以上に加速させていくとともに、応援大使にご就任いただいている森口博子さん、藤本隆宏さんのご協力も仰ぎながら、活動を充実させていきたいと存じます。

宗像大社におかれましては、今後もしも引き続き世界遺産登録活動並びに本遺産群の保全保護に対し、温かいご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

終わりに、宗像大社におかれましては、本年平成二十五年もより一層のご繁栄の年となりますことを祈念いたしますとともに、ご崇敬の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りし、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

暮らしの真ん中に



西日本新聞社

http://nishinippon.co.jp/

本社	福岡市中央区天神1丁目4番1号	〒810-8721
	TEL 092(711)5555(代)	FAX 092(711)5152
北九州本社	北九州市小倉北区堺町1-2-16	〒802-0005
	TEL 093(482)2601	FAX 093(531)2014
東京支社	東京都中央区八重洲2-8-7 福岡ビル	〒104-0028
	TEL 03(3273)8585	FAX 03(3273)8586
大阪支社	大阪府中央区北浜3-1-21 松崎ビル	〒541-0041
	TEL 06(6202)6351	FAX 06(6202)6356

© THE NISHINIPPON SHIMBUN CO.,LTD.

❀ 平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。❀

宗像大社神符頒布始祭

十一月十八日、来たる平成二十五年に向けての宗像大社神符頒布始祭が当大社本殿にて厳肅に斎行された。この祭典が終わると、いよいよ新年に向けた新たな神札の頒布活動が始動する。

当大社は、古代九州で唯一「神郡」を持つことが許された。その範囲は、宗像・福津を中心にその周辺におよぶ。以降、地域の総氏神として篤い崇敬を受けてきた。その御縁から毎年、宗像・福津両市の氏子崇敬者の方々に宗像大社神符を頒布

している。

祭典は、氏子総代約七十名が参集し斎行され、頒布者を代表し宗像大社氏子会置鮎玄三郎会長へと宗像大社神符が授けられた。

祭典終了後、清明殿にて氏子評議員会が開催され、古式祭及び御座への参列の御願い・人形献米の取り纏め・正月祭・一月十三日に斎行される献米奉告祭氏子奉幣使の選定などが協議された。また、後日連絡により氏子奉幣使は、旧福岡町神興地区津丸より選出の評議員 古賀芳

権宮司に葦津敬之禰宜昇任

空席となっていた権宮司に、此度(神社本庁辞令平成二十五年一月一日付)、葦津敬之禰宜が昇任致しました。



葦津敬之 権宮司

葦津権宮司は「昭和の大造営」を完遂された四代前の故葦津嘉之宮司の長男。昭和六十年皇

課長、同二十一年参事、財務部長、広報部長を経て、昨年四月当大社に奉職。社務本局長、造営室長に就任し、此度の権宮司昇任となりました。熱田神宮、神社本庁といった神社界における中枢部での奉仕を経験されており、今後は高向宮司を補佐し、当大社の御神徳の発揚はもとより、次年度より本格化する「平成の大造営」に、これまで培われたその実力を遺憾なく発揮し貢献されることでしょう。

節分祭の御案内

本年も下記日程で節分祭を斎行致しますので、皆様振るってご参列下さい。

宗像観光協会主催 豆まき

- 2月2日(土) ◆豆まき 午前11時～
於=本殿横 特設舞台
- 2月3日(日) ◆節分祭 午前11時～
於=本殿
- ◆豆打ち式 午前11時30分～
於=本殿横 特設舞台



秋氏に決定した。閉会后、氏子総代・評議員の方々は各地区に頒布する宗像大社神符・人形を手に当大社を後にした。

あなたのいちばんに。 FFG 福岡銀行グループ

明けましておめでとうございます。
今年もよろしく
お願いいたします。



福岡銀行

宗像支店 宗像市東郷5-4-5 TEL 0940-36-2017 赤間支店 宗像市土穴2-1-17 TEL 0940-33-7211

平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。

古式祭・鎮火祭

古式祭

八百余年の歴史

去る十二月十六日(日)未明、八百余年の歴史を持つ古式祭が御本殿にて厳肅に斎行された。

新穀を御神前にお供えし神々に五穀豊穡を感謝する祭典と、奉仕者・参列者も神々と御膳を共にする「御座」の二つで構成される宗像地方独自の神事である。神饌(御供え物)は、神職だけではなく地元宗像市田島・江口区民、地元総代等が共に調製する。新米の御飯・海川山野の幸のほか、菱餅、九年母(くねんぼ・蜜柑の原種)を特製の竹籠に入れた「御菓子」と云われる特殊な御供え物、江



古式祭 祭典



清明殿での御座

口区の人々によって採取された「ゲバサモ(海藻)」が捧げられる。また、御座は田島区内八班の氏子が毎年交代で奉仕する、今年担当を務める宿ノ谷班の男性奉仕者が神職と共に参籠(神社に宿泊し、世俗との交わりを断ち、身を清める事)を行い奉仕した。

祭典は夜が明けない暗闇の午前六時、前日より参籠した高向宮司以下神職が奉仕し、宗像市田島・江口両区長、当番班々長、置鮎氏子会々長が参列し斎行された。

祭典終了後、清明殿にて御座が行われ、午前五時頃より、御座受付開始を待ちわびる参拝者の列が出来ていた。一座五十名で、午前六時半から一番座が始まり、六番座迄計二五一名が参列し、今年五番座に神郡宗像塾生約三十名も参列した。参列者は、忌穂が刺し立てられた御飯や田菜・ガメ煮・なま酢・みそ汁などを栗箸で食した。又くじ引きも行われ、神札・翁面・御神盃などが参列者に授与された。御座は神様と御膳を共にし一年の喜びを分かち合う「神人和楽」に本来の目的がある。

鎮火祭

火神の荒びを鎮める

午前十時半には最後の御座も終了し、今年の御座も滞る事無く終了した。

古式祭終了後、午前十時より鎮火祭が斎行された。「ほしずめの祭」とも言われるこの神事は火神の荒びを鎮め、その災いを受ける事のないように祈る神事である。神話では火神の荒びを、水神が「ひさご」、埴山姫神が「川菜」を以て鎮めたことある。祭典でも宮司以下二名の神職が拜殿にて、火打石で忌火を起し、「ひさご」で水を注ぎ、次いで「赤土」、最後は「川菜」で覆う、鎮火の儀が行われた。

祭典には谷井宗像市長・小山福津市長を始め、阿部・吉武両県議会議員、吉田宗像市議会議員・大久保福津市議会議員、県消防学校々長、宗像市防災協会、宗像地区消防本部、宗像・福津市消防団関係者、置鮎氏子会々長らが参列し、寒さが一段と厳しくなり火の気が多くなる年末年始の平穏を祈った。



鎮火の儀

人と技術の未来を創造する

Human & Technology

三島光産が永年培ってきた技術やノウハウそして製品たち
実は私たちの身近にたくさん活かされています



三島光産株式会社

代表取締役社長 三島 正一
本社/北九州市八幡東区枝光二丁目1番15号 Tel 093-671-8500 Fax 093-671-8503

平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。

大注連縄懸け替え

新年を迎えるにあたり十二月八日、辺津宮本殿・第二宮・第三宮の大注連縄の懸け替えが行われ、薬の香りが漂う真新しい注連縄が大島の沖・中両宮奉賛会、同翼賛会十五名の御奉仕により無事に懸け替えられた。

この注連縄は、十一月中旬に辺津宮の総代・協力会総出で藁すくり作業を行い大島へ送った藁を、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会の御奉仕によ

り、出漁出来ない時化の時を見計らって、大注連縄が縄われた。長年の経験と知恵が必要であり、三十年余り前から大島で奉製されている。



大島で奉製中の大注連縄



「神郡宗像塾」始動

く神光照海、先人たちの叡智に学ぶ

十二月十六日、若者や各界の指導的立場におられる方々に、宗像の歴史を知っていたらこうと発足された「神郡宗像塾」、第一回目の勉強会が約三十名の出席のもと「海の道むなかつ館」にて行われ、市内はもとより遠方より出席される方もおり、好評を博した。

ご周知の通り、当大社に祀られる宗像三女神は日本書紀・古事記にも記される。又、宗像地域はその昔、九州で唯一の「神郡」として定められるなど数多くの歴史が残っている。

この歴史に潜む先人たちの叡智を学ぶことにより、将来の指導者を育てよう」と発足された当塾、当大社で十二月十六日に斎行された八〇〇年の歴史をもつ「古式祭」に参列の後、開催の運びとなり、十一時より当大社前の「海の道むなかつ館」に場所を移し第一回目の勉強会が行われた。

当大社高向宮司



を講師として、宗像の歴史と文化について、約一時間の講演を受け、出席者らは熱心に聞き入っていた。今後毎年五、六回程度、講師を招き講演を拝聴すると共に座学も開いての勉強会を開催しますので、お気軽にお問合せ下さい。

招き講演を拝聴すると共に座学も開いての勉強会を開催しますので、お気軽にお問合せ下さい。

- 参加料**
- 大人：千円
 - 学生：無料
- 事務局**
宗像大社社務所

太陽光は、九電工っす!

SunQコール ☎ 0120-039-905
www.kyudenko.co.jp/taiyoko

太陽光は九電工

株式会社 **九電工** 福岡北営業所
〒811-3219 福津市西福岡2-17-17
TEL0940-42-1120



Make Next.
九電工
福岡北営業所

第41回「宗像大社短歌大会」

宗像大社短歌大会実行委員会

第四十一回宗像大社短歌大会(実行委員会主催・毎日新聞社共催)が十一月十一日、清明殿にて「小・中・高生の部」「一般の部」の二部構成で盛大に開催された。午後からの「一般の部」では、宗像大社より葦津敬之禰宜の挨拶があり、続いて藤野早苗先生による「愛のうた」と題した講演が行われ、万葉集、平安時代そして現代の歌を例に挙げながら、挽歌こそ本物の愛の歌であることと解説され、深い感銘を与えた。

選評は青木昭子先生、野田光介先生、山本加壽子先生、桜川冴子先生により行われ、熱心かつユーモアあふれる指導の一時となり、出席者等は無論熱心に聴き入っていた。その後、表彰式が行われ、快い拍手が響くなか本年の大会を閉幕した。



主な受賞者は次の通り。

一般の部

福岡県知事賞

井寺 容子

筑後市

福岡県教育委員会賞

樋口 洋子

八女市

宗像市長賞

塩見 千里

山口県下関市

決戦へスコアブックを抱きしめて始発電車は青田をすべる

◆ 福津市長賞

井寺 容子 筑後市
葉の陰に枇杷の花咲く瞑想の時間とおもふ五十代は

◆ 宗像市教育委員会賞

立野 比文 八女市
一撃の太鼓にくり出す山笠が夏の扉をいつきに開く

◆ 福津市教育委員会賞

加藤 栄子 福岡県遠賀町
老の息足して返しぬ紙風船仰ぐ幼なのリボンがゆらく

◆ 毎日新聞社特別賞

山崎 碧 福岡市
だんだんに容量小さくなりてゆく
海馬にけふのあきらめの雨

◆ 宗像大社宮司賞

岸原 修 福岡県新宮町
謝るにもう遅すぎる人のあり折鶴の項こくりと曲げぬ

高校生の部

◆ 宗像市長賞

福岡女学院 久保 里奈 一年
ピンピンとホップステップジャンピング

◆ 福津市長賞

宗 像 梅雨の私の髪の毛たちは
試合前覚悟を決めて初坊主 似合っていないがやる気は満タン

中学生の部

◆ 宗像市長賞

福岡教育大学 杉岡 和 二年
父の日に言えなかったありがとう
くしゃつと丸めた感謝の手紙

◆ 福津市長賞

福岡女学院 西 雅子 三年
春風がふわつと私を囲んだらさらっていった小鳥の帽子

小学生の部

◆ 宗像市長賞

津屋崎 田中 悠聖 四年
三日間りん海学校遊んだよスイカわりではおれがヒーロー

◆ 福津市長賞

南 郷 大川 孟士 六年
誕生日メガネをもらいかけてみた少し大人にぼく十二歳

謹賀新年

新しい年が素晴らしい一年となりますよう
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます
2013年元旦



ダイドードリンク株式会社
西日本営業部福岡オフィス
092-663-2171

ダイドービバレッジサービス株式会社
福岡東営業所
092-663-2310

ダイドービバレッジサービス株式会社
福岡南営業所
092-574-4642

平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。

第25回 宗像大社刀剣展閉幕

昭和六十二年第一回目の開催より

企画展示に御尽力頂いた藤川宣重氏勇退

去る十一月一〜二十五日迄、当社神宝館で、当大社所蔵の奉納刀剣と周辺の愛刀家の所蔵刀を展示する特別展を開催した。昭和六十二年の開始以来、例年西日本菊花大会の開催時に合わせて実施してきた本展。今回の開催は二十五回目となる。

今回も、江戸時代の福岡藩主からの奉納刀剣や、人間国宝の名工による昭和時代の奉納太刀など、六十一振を展示。刀剣を初めて目にして不



刀剣展開催中の神宝館

思議な魅力に驚く人、各時代の日本刀の美しさに深く感じ入る愛刀家、恒例の展示を楽しみに毎年観覧しているリピーターなど、会場には連日多くの人々が押し寄せた。

本展は、二十五回目の節目を迎え一幕を閉じる。展示企画を行ってきた藤川宣重氏は、在銘で筋の良い名刀にこだわって展示品を選出し、毎回、刀剣ファンを唸らす作品を展覧してきた。人々の心を強く引きつける展示はいつまでも色あせない記憶となつて生き続けるだろう。これまでの長きに亘り、ご尽力頂いた藤川氏、ご協力頂いた愛刀家の皆様に深謝申し上げます。

宗像大社刀剣展を振り返って

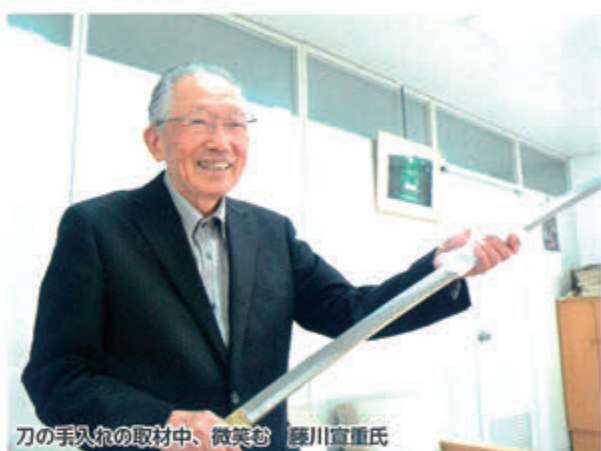
藤川 宣重

昭和四十五年、故葦津嘉之宮司(当時は権宮司)より弘江組中野弘愛氏を通じて、神社の刀剣研磨の要請がありました。当時、新日鉄に勤務のかたわら、趣味で始めた刀剣研磨の技で、神社の刀剣復活に奉仕出来るとは夢の様でした。同時に素人

同然の私に、研磨を託された宮司の度量の深さに感じ入りました。

「筑前福岡住守次則定・行宗」親子合作の太刀を手始めに、昭和六十二年迄、十七年がかりで錆刀の研磨をすべて完了、これを記念して、一般に公開したのが「宗像大社刀剣展」の始まりです。以来、回を重ねる事、二十五回、途中事故も無く開催する事が出来たのは、神社関係者、愛刀家の皆様の温かい御支援のおかげと深く感謝しています。

刀剣展の開催も結構、気力、体力、神経を使う仕事で、持病のある私には限界が来たと思います。今後は研磨後の刀を見直して、仕上げ直し等、奉仕する予定です。



刀の手入れの取材中、微笑む 藤川宣重氏

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



SF CALL CENTER : 国内線 0570-07-3200
国際線 0570-07-8200
<http://www.starflyer.jp>

株式会社 スターフライヤー
代表取締役 米原 慎一
社長執行役員

平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。

落語家 五代目桂米團治氏参拝 〜清明殿にて落語会開催〜

十一月二十九・三十日にかけて、落語家・五代目桂米團治氏ら四名が当大社辺津宮、中津宮を参拝、沖津宮を遙拝された。

桂米團治氏の実父は、落語家である間国宝の三代目桂米朝氏である。昭和三十三年、長男として生を受け、昭和五十三年八月、父である桂米朝氏に入門、桂小米朝を名乗る。同年十月、京都金比羅会館「桂米朝落語研究会」にて初舞台。以降様々な落語会に出演する。平成四年、大阪府民劇場奨励賞受賞。平成十七年、兵庫県芸術奨励賞受賞。平成二十年



清明殿での落語会

十月、五代目桂米團治を襲名し、現在日本全国で大活躍されている。

一行は午後四時、

辺津宮、高宮等を参拝、神宝館を拝観された。午後六時からは、清明殿において「宗像で桂米團治を聴く会」と題し、落語会を開催。地元はもとより福岡県内を中心に、約一五〇名が集った。高向宮司より開演の御挨拶を申し上げた後、約一時間半の落



本殿横にて (桂氏は写真中央)

語会は大盛況で幕を閉じた。翌日、一行は早朝より大島へ渡島し、中津宮、御嶽神社を参拝。沖津宮遙拝所から、遙か沖合いの沖ノ島を眺めつつ、沖津宮を遙拝された。

落語界の益々の御繁栄と、桂一門の御健勝、米團治氏の御活躍を御祈念申し上げます。

最後に、この度の「米團治を聴く会」開催に際し、多大なる御尽力を賜った、宗像ユリックス御関係の皆様、ファンキークルー荒井かおり様をはじめスタッフの皆様には、厚く御礼申し上げます。

ブルガリア駐日大使参拝

去る十一月二十二日、駐日ブルガリア共和国特命全権大使 ゲオルギ・ヴァシレフ氏が当大社を訪れ、正式参拝された。



参拝後、甘酒を受けるゲオルギ氏等

毎年、宗像市に於いてブルガリアの文化とスポーツの交流事業が行われており、宗像市はブルガリア共和国ガザンラク市とパートナー都市協定

を締結している。

交流事業の為に宗像

市を訪れていた同氏が、日本の伝統文化に関心を持たれていた事から今回の参拝となり、案内神職の説明に熱心に耳を傾けられ、当大社の歴史、文化、伝統に感銘を受けられていた。

今回の参拝が、日本の伝統文化を知る助けとなり、日本とブルガリアの友好を深める一助になる事を願います。

TOYOTA

福岡県トヨタ販売店グループ

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社

代表取締役社長 金子 直幹

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号
電話(092)761-3331

トヨタカローラ福岡株式会社

代表取締役社長 有田 耕一

〒810-8603 福岡市中央区長浜2丁目1番5号
電話(092)712-7111

ネットトヨタ北九州株式会社

取締役社長 宮里 宣哲

〒806-0041 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号
電話(093)642-2111

福岡トヨペット株式会社

代表取締役社長 中尾 潤一

〒812-0008 福岡市博多区東光1丁目6番13号
電話(092)411-1121

トヨタカローラ博多株式会社

代表取締役社長 久恒 兼孝

〒812-0042 福岡市博多区豊2丁目3番50号
電話(092)441-2111

干支はりこ

新しい干支縁起物

一刀彫

木型に紙を貼り、乾いてから型を抜き取ったものを「張り子(はりこ)」と申します。

張り子は動物や達磨、また幼児の玩具として親しまれてきました。おなじみの方も多いのではないのでしょうか。本年も干支張り子を縁起物として授与致します。

張り子の中に鈴の入った「紙音」、干支の巳が破魔矢を持った「破魔矢巳」、首の部分が動く「首振り巳」の三種類です。

楠を素材に、その年の干支を一本のノミだけで奉製するため「一刀彫」と称します。当大社では伊勢の名匠に特別に製作を依頼し、一体一体丹誠をこめ奉製していただいております。

刀痕と木目とがあいまって素朴な中に力強さ、あたたかさなどがこめられたこの一刀彫は、十二支全てを揃えると幸運に恵まれ、願いが叶うと言われております。ご家庭や職場で奉斎し平穏な幸多き一年をお過ごし下さい。



干支はりこ (首振り巳)
初穂料 1,000円

干支はりこ (破魔矢巳)
初穂料 700円

干支はりこ (紙音・鈴入り)
初穂料 500円



初穂料 2,000円

数に限りがありますので、お早めにお受け下さい。

今年最初の運だめし

新春 福みくじ

～縁起物からロボット掃除機・カメラなど家電まで～
1回500円(空くじなし) 時間・・・元旦午前零時～ 場所・・・神門前



DTP デザイン印刷・WEB サイト制作・各種ムービー制作
(株) HSD エイチエスデー
〒811-3439 福岡県宗像市三倉17-1
TEL 0940-36-9012 URL <http://h-sd.co.jp>



株式会社 **ハーベスト警備**
福岡県公安委員会認定第581号
代表取締役 **坂上 正晴**
〒813-0044 福岡市東区千早5丁目21-2サンビル2F
TEL (092)673-0180 FAX (092)673-0190



福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役社長 **内山 邦彦**
〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目10番11号
電話(092)411-1330【代表】

理容とんぼ

〒811-3436
福岡県宗像市東郷5丁目5-10
TEL(0940)36-2405



一般社団法人 **日本自動車連盟九州本部**
本部長 **有田 耕一**
〒814-8505 福岡市早良区室見5-12-27
電話(092)841-7676【代表】



玄海灘を望む風光明媚な格調高いシーサイド・コース
玄海ゴルフクラブ
〒811-3502 福岡県宗像市江口578-18
電話(0940)62-2233【代表】
FAX(0940)62-2728





(続)

宗の寄物

273



いしいただし

十月の新聞広告に「軍艦防波堤へ」(駆逐艦涼月と僕の昭和二十年四月)

というのが出ていた。早速福岡市の書店で購入してきた。著者は澤章、発行は平成二十三年三月、栄光出版、帯に「小学六年の夏、僕は父に連れられて、駆逐艦涼月が軍艦防波堤として眠る北九州に出掛けた。気がつくとは僕は曾おじいちゃんが艦長だった昭和二十年の涼月の艦上にいた。戦艦大和を護衛し、沖繩特攻に出撃

した涼月は、悲運の艦艇か、それとも強運の不沈艦か…。」

僕は父に連れられて軍艦防波堤を見に行つたがタイムスリップをして二十年四月出撃する涼月の艦上にいたのである。艦内での出撃準備、曾じいさんの艦長平山敏夫とも会話をまじわす。やがて出撃、襲ってくる米軍機激しい戦闘・戦う兵隊、大和、矢矧、四駆逐艦の沈没、夕ぐれになって満身創痍で、佐世保へと戻ってくる。僕は現実に戻る。

僕の曾じいちゃんは僕が中学一年生のとき亡くなった。昭和四十六年(一九七二)六十七才だった。「あとがき」によれば、涼月艦長平山敏夫は、明治三十九年四月一日、父・甚四郎、母・タツの長男として、鹿児島県大島郡鎮西村諸鈍で出生した。大正三十四年、海軍兵学校入学、昭和二年三月海兵五十五期として同校を卒業、以後一貫して水雷屋(水雷戦隊)の道を歩む。



平成23年、佐世保にて

昭和十九年、四年近い少佐時代を終えて中佐に昇格、駆逐艦早霜の艦長に着任したのも束の間、同年十月の戦闘で右足を負傷し、別府湾海軍病院のベットの上で年を越した。

全治して出勤の許可が出たのは、昭和二十年二月五日、翌月十日に駆逐艦涼月の艦長として着任、沖繩特攻のわずか一か月前、慌しい人員配置だった。僕に曾じいちゃんが、自ら戦争の話をしたことは一度もなかった。少なくとも孫の私には何ひとつ語らなかつた。ただ弾が体に残っていることを笑いながら語ったことがあるという。同書の巻末には涼月の戦死者傷者名一覧がある。戦死者五十七名、負傷者三十五名という、死者一〇〇名と書いた本もあるが死傷者合わせたものであろう。この本では涼月が涼月となっている。正式の軍艦名は涼月である。戦艦大和とともに戦った艦が、今は防波堤となっていることにさびしさをかくせない。せめて艦形だけでも掘り出し、鎮魂塔をつくるべきではないか。

玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心
一風光明輝、生魚料理、宗像大社となり

魚屋本店 ☎(0940) 622122

魚屋別館 ☎(0940) 623355

御宿はなわらび ☎(0940) 620107

玄海旅館 ☎(0940) 620001

玄海ロイヤルホテル ☎(0940) 624111

国民宿舎ひびき ☎(0940) 621288

高嘉旅館 ☎(0940) 621221

松風荘 ☎(0940) 620120

みなと荘 ☎(0940) 622255

亀の井ホテル ☎(0940) 383301

🌸 平成25年 元旦 明けましておめでとうございます。🌿

第六一七回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 田久

二十年通勤していしこの電車景色の変わりて不安を誘う

山を崩し分譲地やモールができ、急速に変わる車窓の風景に不安を覚える作者。少し変え(二十年通勤に乗る電車より見る景色変わる不安非すまで)に。

福津市 若木台

吹き渡る風の神苑に声上がる菊花展の仕度始まりし朝

宗像大社の菊花展の準備をしている様子を風と人の声で表現した歌。風にあおられ声をあげる人などが想像される。結句は現在形で(始まる朝)に。

北九州市 八幡西区

飢え被爆まぬがれながら兵の日をいちばん思ひありありと頭つ

記憶の中で最も生々しいのは、戦時中の飢えや被爆と言う作者。女性なので兵の日は戦の日とし、二、四句を(まぬがれ生きし戦の日々わが思ひ出に)に。

うきは市 浮羽町

豪雨下に避難を急ぎ老眼鏡忘れて来れば新聞も読めず

筑後川流域の洪水の時のことだろう、急のことで老眼鏡を思いつかなかった作者の困惑がリアル。結句は(新聞読めず)と事実のみに留めると緊迫感が増す。

福岡市 南区

痛む足かこちながら杖を手に食材求めスーパーに行く

かこつには嘆く・愚痴を言うことと辞書にあるが、この場合は足をかばうと言った方が適切では。(痛む足かばいながらも)とすると作者の頑張りが見える。

宗像市 日の里

たつぷりと秋草活けて客を待つ天満宮の茶店に入る

天満宮の門前だろうか、茶店に活けられた秋の草花に眼をとめ楽しむ作者の気持ちが初句の(たつぷりと)にももっている。

福津市 中央

弟の逝きたる春は早もすぎ桜並木はもみじとなりぬ

弟を亡くした作者の悲しみもよそにいつの間にか秋の装いになってしまった桜並木、せつない歌だ。三句は(早や離り)としてはどうだろう。

福津市 若木台

雨の中集ひ来りし大岳荘歌会終りし頃に上がりぬ

歌会に集った人の熱意と終了後の安堵感が感じられ固有名詞も効いているが、文脈に捩れがあるので、雨を主語にして詠むことも試して

福津市 星ヶ丘

もうだめという感じにて傾きし独楽より色のあらわれにけり

回っている間は見えなかつた独楽の色が斜めになる頃にそれぞれ見えてきたという発見が魅力。二句以下を(傾き始めし独楽よりもとりどりの色あらわれ来たり)とした。

宗像市 池田

定まらぬ気温に喘ぎ眠剤の一錠に今宵託さむとせむ

秋は気温が変わりやすく苦勞する。不眠の原因は暑さか寒さか分かること良いのだが。(急激な気温変化に喘ぐ夜は眠剤一錠に眠りを託す)としてみた。

宗像市 田久

診察を待つ女の児しんぶんを一面からじゆんに目を通しゆく

女の児が新聞を一面から見ますが大人みたいで面白く思つた作者。このままだでも良いが、やや平板なので四五句を倒置してみても。かな表記は再考を。

宗像市 大島

エンジンの音軽やかに響き合ふ朝風の浜に暫し立たずむ

爽やかな朝の浜辺の風景と音。エンジンの音は漁船だと読んだが、できたら漁船と言葉を入れた。作者の動作を入れずに風景のみを詠む方法も試しては。

北九州市 八幡西区

裏庭のみみじの紅葉たのしみも小鳥の乱舞らくよう惜しむ

紅葉は散りゆく様も魅力のひとつ。二句のもみじは紅葉と重なるので楓とし(裏庭の楓の紅葉たのしみり小鳥舞う)と散るを惜しみてとしてみた。

宗像市 土穴

七人のかもす演奏・知己のごほほえみ交わすアンサンブル・ベルリン

室内楽のコンサートで和やかな雰囲気を楽しむ作者。言葉の順序を変えて(客席とほほえみ交わす演奏すアンサンブル・ベルリン七人の楽人)とした。

宗像市 日の里

海見ゆるコスモス開く霊園に新らたにつくる墓石輝く

海の見ゆる霊園での作者の感慨が詠まれて爽やか。少し言葉を変え、二句を(コスモスの咲く)四句(新たに建てる)にすると語調が良い。

野間 精一

佐々木和彦

森 龍子

巻 桔梗

杉田 禮子

永田久美子

山本 静子

秋吉 嘉範

選者詠

体力の充ちて覚むるにあらぬ朝

ひかりは臉をやはらかく押す
レジに寄る客われを見てスイッチの
入りたるごとく青年が笑む

1月祭事暦

1日	元旦祭 午前7時～ 総社地主祭 午前9時～ 総社祭 引き続き 高宮地主祭 高宮祭・第二宮・第三宮祭・末社祭
2日	新年二日祭 午前9時～
3日	新年三日祭 午前9時～ 午前10時～ 宗像護国神社新年祭
10日	恵比須祭 午前11時～
13日	献米奉告祭 午前11時～
15日	月次祭 成人祭 午前10時～ 高宮祭・第二宮・第三宮祭 午前11時～ 総社祭・成人祭

編集後記

あけましておめでとうございませう。今年の干支は癸巳(みずのと)み、動物は蛇です。蛇は成長するために脱皮し、「再生の象徴」とも言われます。再生の象徴、巳年に当大社でも愈々「平成の大造営」が始まります。総選挙も終わり、新政権には東北復興を始めとし、防衛・領土問題、経済の立直し等、課題は山積みでありますが、日本の再生、大脱皮の年になるように活躍を期待します。皇紀二六七三年、本年も宜しくお願い致します。(鈴)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三二
電話 〇九四〇六二一一三二(代)
発行人 藤津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円